

“心の声”を聴いてみよう

本単元で育成する資質・能力

「主体性」「協働的課題解決力」「振り返り力（メタ認知）」

- 1 日 時 令和2年9月16日（水）5校時（15:00～15:50） 場所 2A教室
2 学年・組 第2学年A組（男子16名、女子13名、計29名）

3 単元観

本教材は、学習指導要領「(C)読むこと(1)ア・イ(2)ア」「知識及び技能(3)我が国の言語文化に関する事項(1)ウ(ア)(イ)」と対応して設定されている。

文学的文章における系統上の位置付けとしては、小学校で「物語を聞く・演じる・感想を書く・感想を述べる」第1学年で「心情の変化・情景描写に着目して物語を捉える」を既習している。そのため本学年では「登場人物と自分の心情とを照らし合わせながら考えることで、物語を深く読む」ことに重点を置きたい。

ここでの学習が、第3学年での「情景や人物の描写から心情を捉え、社会と人との関わりについて考える」という学習に発展していく。

4 生徒観

本学級の生徒は、自らの考えを主体的に述べるができる。また、自己と他者との意見の相違に対して、質問や反論を投げかけることによって議論に転じるという、発展的な学習場面も多く設けることができている。

しかしその一方で、恒常化した学習に対する意欲の低下も見られる。具体的には、自らの意見にこだわるあまり言い放して終わったり、物事を多角的に見たりすることができていない部分もある。

また、1学期末に実施した授業評価アンケートにおいて、「授業は、よく分かります。」に対する肯定的回答は、100%であり、良好であると言える。しかしその一方で、「学習の振り返りをするときには、もっと考えてみたいこと、もっと調べてみたいこと、もっと工夫してみたいことなどを考えています。」という振り返りの観点は、“よく”の割合が28.0%に留まった。このことから、授業時には理解できていても、それを“社会生活に生かす”ことまでには及んでおらず、もっと深く知りたいという主体的な学習者としての態度も身に付いていないように見受けられる。

5 指導観

前述のような課題を打開すべく、本教材を選択した。物語文のなかでも“文脈を捉えて人物の心情を想像する”という多角的視点や社会生活・社会経験を基にした考えを、自分の言葉として表現する力は、生徒たちの今後を見据えたときに必須であると考ええる。

読むということは、読み取ることだけでなく、読んだことに対して自分の考えをもつことまでも含んだ、本来動的な営みである。「文脈」や「展開」に注意して読み取ることを通して、内容や表現に対して、生徒が自分の考えを持てるよう指導したい。これは、PISA調査や全国的な学力調査でも求められた重要な力である。

本校の実態は、R元年度全国学力・学習状況調査結果において、【全体】が、81.0%（全国比+7.0pt）であり、その中でも、【話す・聞く能力】が、77.3%（全国比+6.2pt）であった。

また、H30全国学力・学習状況調査結果は、国語A（基礎）が78（全国比+1.9pt）国語B（応用）が63（全国比+1.8pt）である。

以上の結果より、話す・聞く能力や応用に対して、やや課題があることが見受けられる。本教材を通して、目標達成のための他者との聴き合いや、考えを深めることについての力を身に付けさせたい。

さらに、生徒主体の授業運営で教材を読み進め、基礎・基本の定着を図る。その上で、生徒の提示した疑問や課題を解決に導き、主体的な学びを実現するとともに、本教材を学習する意義を見出したい。

6 単元の目標と評価規準

〈 単元の目標 〉

- ・心情を表す語句が作品にどのような影響を与えているのかを話の展開に沿って捉えることができる。
- ・登場人物の描写や言動の作品における効果について考えることができる。

〈 評価規準 〉

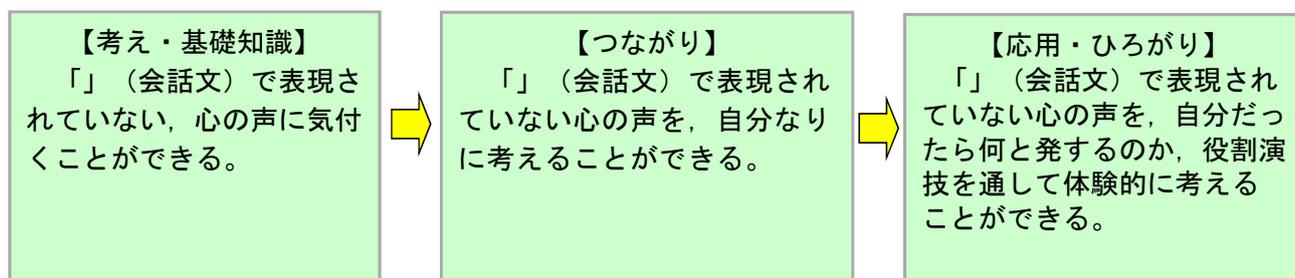
国語への関心・意欲・態度	読む能力	伝統的な言語文化
<ul style="list-style-type: none"> ・進んで作品を読み、家族の人間関係や、「僕」の目線で語られる表現に関心をもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「父親」に対する「僕」の心情を、二人の関係を表す言葉を関連づけてまとめている。 ・「父親」と「僕」との心の距離感を、「僕」の言動を取り上げ、関係づけてまとめている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物の人柄や心情が抽象的に表現されている語句や言い回しに気付き、それらを具体的に説明している。

7 指導と評価の計画

○本単元で身に付けさせたい資質・能力と評価規準

資質・能力	評価規準		
	I	C	E
主体性	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に向き合うことができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会話文の効果に気付き、課題解決にそれを活用しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決のために自分の考えと人物の心情を照らし合わせ、役割演技を通して体験的に取り組んでいる。
協働的課題解決力	<ul style="list-style-type: none"> ・地の文に隠された心情を他者に説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人物の心情を読み取るに至った根拠を説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地の文から読み取った登場人物の心情について、役割演技を通して説明することができる。
振り返り力 (メタ認知力)	<ul style="list-style-type: none"> ・心の声に気付くことができた実感している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物語の内容に即して、心の声としてふさわしい表現を考えることができた実感している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分だったらどう思うかという心情を、役割演技によって表現することができた実感している。

〔 ICEモデル 〕



(全8時間)

次	学習活動	生徒の思考の流れ	観点		評価	
			関	読	知	◇評価規準 ★資質・能力(評価方法)
1	課題の理解 本文を通読し、内容を理解するとともに、今後の学習の見通しをもつことができる。					
	<ul style="list-style-type: none"> ・題名の「盆土産」とはどんなものかを想像する。 ・本文を通読して、初発の感想を交流する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・物語に対する感想を交流しよう。その中で、自分の考えと友だちの考えを比較してみよう。 	○	○		◇★教材文を何のために読むのか理解している。(行動観察)【主体性】
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <p>(単元を貫く課題) ※教師側の捉え</p> <p>物語を通して、人の心情を敏感に察知し、それを文章で表現することができる。</p> </div>						
2	内容読解 登場人物それぞれの人柄と特徴をつかむ。					
	<ul style="list-style-type: none"> ・登場人物を確認し、それぞれの特徴を整理する。 ・登場人物の言動に着目する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人物像がつかめるところに着目し、ワークシートにまとめてみよう。 ・見落としがないか、教科書の本文にラインを入れよう。 	○	○		◇★読み取りを基にして、人物像の把握に努めている。(行動観察・ワークシート)【協働的課題解決力】
3	内容読解 登場人物の心情変化について理解することができる。					
4	<ul style="list-style-type: none"> ・「僕」の心情がどのように変化しているのか、心情曲線を描き、理解を深める。 ・心情曲線を基に、友だちと意見交流をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心情曲線として心の動きを捉えることで、視覚的に理解がしやすいな。 ・友だちの作成したものと比較し、物語の叙述をたどりながら整理する。 	○	○		◇自分なりに心情曲線の効果を考え、まとめることができている。(ワークシート・教科書) ★物語文において、登場人物の心の変化に目を向けることの効果を実感している。(振り返りシート)【振り返り力】
	5	内容読解 本文をまとめ毎に読み、場面の移り変わりをつかむ。				
6	<ul style="list-style-type: none"> ・「僕」の目線から見た「父っちゃん」の人柄をつかむ。 ・まとめ毎に「父っちゃん」に対する思いの変化を読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「僕」の言動を、ワークシートに書き出してみよう。 ・書き出したものを整理し、場面毎にまとめてみよう。 	○	○		◇★登場人物の思いに迫る解釈をしている。(ワークシート)【協働的課題解決力】 ◇記述したものを他者に伝えることができる。(ワークシート)

7 本 時	パフォーマンス課題	登場人物の“心の声”を聴くかのように、その心情を読み取ることができる。			
	<ul style="list-style-type: none"> ・P.102 L.6「なぜだかしゃくりあげそうになって」とP.102 L.7「ドライアイスもいらねべな」というような、矛盾とも捉えられる心情変化に着目して読む。 ・P.103 L.8「また買ってくるすけ…」の「…」には、どんな気持ちか隠されているのか。人物の心情に迫る。(グループ) ・役割演技によって、心の声を実際に発する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・場面毎を比較して読むことで、心情の変化をつかもう。 ・他のグループと交流してみよう。 ・登場人物の心情を理解したうえで、心の声を言語化してみよう。 	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ◇教科書の叙述を辿りながら考えることができる。また、生徒相互に意見をつなぎながら深めることができる。(行動観察) ◇適切に読み取り、考察に結びつけることができる。(KJ法・ふせん) ◇役割演技を通して登場人物の心情をより理解し、言語化することができる。(役割演技)【協働的課題解決力】
8	まとめ	物語を通して、作者が伝えなかったことを、自分の言葉に置き換えて伝える。			
	<ul style="list-style-type: none"> ・「父っちゃん」の盆土産が「僕」にどのような影響を与えたかを考える。 ・これまでの学習を振り返る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・盆土産によって、これまでの心の動きが、最終的にどのようなものになったか考えていこう。 	○	○	<ul style="list-style-type: none"> ◇これまでの内容をまとめるとともに、登場人物の心情を自分に置き換えて考え、感想を書くことができる。(原稿用紙)【書く力】

パフォーマンス課題

育てたい資質・能力	主体性、協働的課題解決力、振り返り力(メタ認知力)
教科の評価規準	登場人物の心情について、叙述を辿りながら読み取ることができる。

パフォーマンス課題のシナリオ

<p>A: 物語文には、「 」(会話文)の表現によって、登場人物の“声”が表現されているけど、会話文がなくても“声”が聞こえてくることってあるよね。</p> <p>B: 会話文がなければ、登場人物は声を発していないということだから、何も聞こえてこないよ。</p> <p>A: たとえば、P.102のL.6にある、“すると、なぜだか不意にしゃくりあげそうになって”という部分は、会話文ではないよね? でも、何かを言いたいんだという“心の声”が聞こえてこない?</p> <p>B: たしかに。でも、その次の行の「冬なら、ドライアイスもいらねべな。」というセリフの感情とは、まったく整合性がとれていないよね。</p> <p>A: そうだね。物語文には、このように直接は書かれていないけれど、登場人物の“心の声”として、心情が読み取れる表現がたくさんあるんだ。それを考えることによって、物語をもっと深く知ることができるんだよ。</p> <p>B: じゃあ早速、この“心の声”は何と言っているのか、考えてみよう!!</p>
--

予備的ルブリック

尺度 (評点、レベル)	記述語 (パフォーマンスの特徴)
3 理想的	「 」(会話文)で表現されていない心の声を、自分だったら何と発するのかわかり、役割演技を通して体験的に考えることができる。
2 合格	「 」(会話文)で表現されていない心の声を、自分なりに考えることができる。
1 乗り越えさせたい実態	「 」(会話文)で表現されていない、心の声に気付くことができる。

